



これは何でしょう



答えについての思い出なども
お持ちしています。

- しめきり 5月15日(休)必着
 - あて先 〒783 南国市大
浦甲一三〇一 南国市企画課
親子クイズ係
 - 賞品 正解者の中から抽選で
5人の人に図書券を進呈
 - ◎第300回親子クイズの答えは、
ランドセルでした。
- 第300回当選者発表(敬称略)
(応募総数53通)
- 片岡 慶子(緑ヶ丘)
 - 松下 美子(浜改田)
 - 高木美和子(前浜)
 - 竹島 淑子(立田)
 - 横山 和恵(緑ヶ丘)

☆思い出がいっぱい☆

- ◆小学校入学の時、赤いランドセルを初めて背負い、わくわくしながら登校したことを思い出します。また、一か月の自分の子ども、あのわくわくを味わう日が来るのかと、うれしくなります。(大島 貴子)
- ◆入学式早々、ランドセルの重みで三十八度の熱を出してしまいました。(土居 順子)
- ◆お母さんが、時々ランドセルを磨いてくれていました。私には、思い出深いランドセルです。(松下 美子)
- ◆子どものころ、ランドセルを買ってもらった時、あまりのうれしさに抱いて一緒に寝た覚えがあります。(岡本 敏恵)
- ◆私の子どものころは、赤がほとんどだったけど、近ごろでは色はカラフル、型もいろいろあり、ピシクりました。(横内由加里)
- ◆高いことかけて、買ってもらったのに三年生くらいで、すぐ使わなくなって。(近森 智恵)
- ◆今年卒業したのでランドセルを背負う機会がなくなりました。(子岡 裕也)
- ◆今年で妹が中学一年生になります。ランドセルがボロボロになっていました。(高木 春佳)

土佐国分寺所有

南国市保護有形文化財に
板絵両界光明真言曼荼羅を指定

これらの曼荼羅は、国分寺金堂内の壁面に、円形二枚の板絵として、金剛界光明真言曼荼羅を東(向かって右)に、胎藏界光明真言曼荼羅を西(向かって左)につるしています。

この二枚の板絵は、平安時代後期以降に流行した光明真言の信仰によって成立した曼荼羅で、円形の板(杉材)に描かれたもので、構図は、曼荼羅の中央に本尊、大日如来を配しています。金剛界の大日如来は、左手の人差指を立て、それを右手で包む智拳印を結び、胎藏界の大日如来は、両の掌を合わす定印を結んでいます。この両界大日如来の周囲には、左回りに梵字で、光明真言の二十四字を配しています。この二十四字は、一切の罪障と宿業と病魔などを除くといわれ、大日如来と阿弥陀如来の徳を合わせ持つものとして、信仰されました。



胎藏界曼荼羅

円形の直径2.15m、厚さ2.2cmの杉板に描く。胡粉・金粉・朱・墨などを使い、描き方から推して室町時代の特色を持つが、特に唐草紋の入った天衣(てんい)に朱を引くのはこの時代の特徴である。

円形の曼荼羅の外側には、一条の金線を入れた黒枠があり、その幅11.5cm。黒枠には、桐紋の金具・雲形の金具が残存し、如来の頭光(くわん)の右にこの絵を描いた作者の落款(らくか)印が描かれている。

この曼荼羅の裏面には、全面といってよいほどの墨書がみられる。これを年代的にみていくと、その大半が消えかかっているが、慶長年間(江戸時代初期)の墨書が裏面上部の左右にみえる。中央部から下半にかけて、明治3(1870)年の長文の墨書がある。

これらの墨書によって、慶長年間に破却したものを、修理におよんだとみられ、また、明治3年の長文に注目すべき銘文があり、もとの曼荼羅は、一宮神社に掲げられていたもので、明治4年の神仏分離に伴い、一宮神宮寺・善美寺ともに廃寺となり、国分寺に預けられたものと解される。



金剛界曼荼羅

胎藏界曼荼羅を模して造られたもの。材質は、杉材、径2.715mの板絵で、外側の黒枠の幅7cm、厚さ2.85cmである。

製作年代は江戸時代の作といわれていたが、今回の調査で裏面に存する墨書によって、文化14(1817)年に寄進されたことを確認。また「南無四国八十八ヶ所霊場當国(とくに)一ノ宮奉納金剛光明真言」の文字があるので、江戸時代後期に一宮(土佐神社)に奉納されたこと、そして、その目的は、四国安穩(あんゑん)、万人が法界に至ること、四国八十八ヶ所の霊場をまとめて一宮に勧請することを旨としていることが判明。

胎藏界曼荼羅は描かれた後面の様式から室町時代のものとみられ、慶長年間に修理されています。金剛界のものは、江戸時代でも新しい時期のもので、(裏面の)墨書からは、札所としての土佐神社の信仰の一端を知ることができ、あわせて廃仏毀釈によって、この物件が土佐神社から国分寺に入った経緯も知り得ることができそうです。

市教育委員会は、県文化財審議委員長の岡本健児先生に現地調査を依頼し、その結果を市文化財審議委員会で審議し、二月十五日に指定書を交付しました。

同和問題 Q & A

疑問に答えて⑩ その二
◆私たちは、推進講座などで学習しているが、同和地区の人たちも少しは学習しているのか?

前号で、集会所事業の定期学習について紹介しましたが、南国市における社会同和教育の中心の地区内学習は、上の表のように取り組まれています。

小・中学校子ども会や高校生友の会では、次代を担う子どもたちが、自分のおかれている立場を自覚し、部落差別に対して憤りを持ち差別解消のために進んで行動できること、自分の将来を展望し、進路を切り拓く力や仲間を大切にする心を育てることを目的に活動しています。ここでは、「差別をしない、させない、許さない」が合言葉になっています。

このような子どもたちを支援する組織が育成会です。育成会は、地域の保護者や学校・行政職員により組織され、子ども会や友の会活動が活発に行われることや、子どもたちの自主性・主体性を育てるために活動しています。

また、家庭教育学級では、家庭・地域・学校が教育集団となつて、人権を尊重する子育て学習を中心に活動しています。

集会所事業	野中地区5集会所、東崎西部地区1集会所、前浜地区1集会所 (内容) 定期学習・同和問題学習、健康、歴史、作法、時局、交通など月一回実施 継続学習・茶道、生け花、ちぎり絵、料理、大正琴、舞踊、詩吟、着付け、書道、珠算など月1~4回実施
解放子ども会・高校生友の会・および育成会活動	小・中解放子ども会および高校生友の会 (内容) 解放学習、識字学級生との交流、スポーツ、体験学習(園芸作業、清掃作業)、レクリエーションなど 各育成会 (内容) 解放子ども会、高校生友の会活動への協力、解放学習会など
家庭教育学級	野中地区…おひま家庭教育学級 前浜地区…しおさい家庭教育学級 (内容) 子育てに関する学習会を中心に、月1回実施
識字学級	野中地区…野中識字学級、夜間識字学級 前浜地区…前浜識字学級 (内容) 文字学習を中心に、週1~2回実施

短歌

田舎えひと段落の夕暮に
薪を燃やして初焼く
西山 岩貞健一郎

あす来る大卒に入る孫の荷物
すき間もあらず一部屋占める
龜 岩 貞 一郎

散り残る山桜花々まけて
よぎるたまゆらすべてが笛
三 島 有元 一馬

俳句

風の花散りくる一陽飯屋かな
物 部 山川 邦子

空港の燈の煌々と菜種梅雨
前 浜 中村 祭生

秋味是ヒニルヒニルヒニルと風が笑く
前 浜 中村 一生

桜ともつ、じとも言えぬ我が身かな
十 寺 加川 須磨

野遊の一葉旗あり三の丸
植 野 中上日出子

川柳

膝に来て重く抱かれし迷い猫
綿う丘 加美 寿亀

亡父きたときだはし登れば板まう
里改田 下紙 一子